

メディカルタウンの住まい方

～ 最期の日までの家とケアと人と暮らし ～

高齢で一人暮らしとなり、病気や不安を抱えて医療・介護が必要となったとき、あなたはどこでどのように暮らしますか？
住み慣れた町や家で、馴染みの人たちに囲まれて、暮らし続けることはできるでしょうか？
もし住み替えるとしたら、どのような住まい方が考えられるのでしょうか？
誰にでもいつかは訪れるであろう「その時」のためにも、
これからの「住まい方」について、地域とのつながりも含めて話し合いませんか。

◆コーディネーター

柳田邦男氏 ノンフィクション作家
秋山正子氏 30年後の医療の姿を考える会会長 白十字訪問看護ステーション統括所長

◆基調講演 「病院の世紀から 地域ケアの時代へ」

猪飼周平氏 一橋大学大学院社会学研究科准教授

◆パネルディスカッション「最期の日までの家とケアと人と暮らし」

新田國夫氏 国立市 新田クリニック院長 都市郊外での住まい方と在宅医療
柴田範子氏 川崎市 NPO 法人「楽」代表・東洋大学ライフデザイン学部准教授 小規模多機能ケア
松本均氏 横浜市 横浜市健康福祉局介護保険課長 高齢化の進む団地での見守りと行政
中村順子氏 秋田市 日本赤十字秋田看護大学 雪国での生活スタイルと看護の可能性
三浦研氏 大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授 個性を大事にする高齢者施設での住まい方
(コメンテーター) 猪飼周平氏 一橋大学大学院社会学研究科准教授

◆終わりに

樋野興夫氏 30年後の医療の姿を考える会顧問 NPO がん哲学外来理事長 順天堂大学医学部教授

◆総合司会：大久保菜穂子氏 聖路加看護大学看護実践開発研究センター客員研究員

2011年2月13日(日)

13:30～16:30 受付：13:00～

聖路加看護大学アリス.C.セントジョンメモリアルホール

地下鉄築地または新富町から徒歩6～7分

入場無料・参加自由・申し込み不要

共催：30年後の医療の姿を考える会、NPO 法人白十字在宅ボランティアの会、高齢社会におけるソフト研究会

後援：東京都 高齢者住宅財団 朝日新聞社 毎日新聞社

協賛：プルデンシャル生命保険(株)



問い合わせ先：NPO 白十字在宅ボランティアの会 Eメール volunt-hakujuji@coast.ocn.ne.jp
高齢社会におけるソフト研究会 Eメール soft-info@koujuuzai.or.jp

このシンポジウムは、公益法人勇美記念財団の在宅医療助成を受けて開催されます。